



# BOOK 図書館だより

## たくさんの本を寄贈していただきました 東京神楽坂ライオンズクラブ文庫

毎年、佐渡ライオンズクラブと姉妹クラブである東京神楽坂ライオンズクラブから両津図書館に児童書を中心に書籍を寄贈していただいています。

今年も新しい本が108冊届きました。ぜひお楽しみください。

□寄贈いただいた本の一部をご紹介します!

### 「アッチ・コッチ・ソッチの小さなおばけ」シリーズ

角野栄子(ポプラ社)

### 青春ハンドメイド 学研プラス(学研)

### 歴史ごはん 食事から日本の歴史を調べる

永山久夫ほか(くもん出版)



## 年末年始は、本を借りてゆっくり読書を楽しみませんか!

市立図書館・図書室は、12月28日(土)まで全館開館しています。ぜひ、本を借りにお越しください。

なお、新年の開館は1月4日(土)からです。

## 市立病院から こんにすは

### インフルエンザの ワクチンについて

両津病院 副院長 岩谷 淳 先生 診療科目/小児科

「今までインフルエンザにかかってつらい思いをしたことはなかった

ところが、ワクチン接種率の著しい低下に伴いインフルエンザの流行が大きくなり、冬の超過死亡が増加しました。インフルエンザワクチン接種率と、冬の超過死亡(多くは高齢者の超過死亡)の増減の変動は関連していることを示した論文が発表され、インフルエンザワクチンの効果が見直されることとなり、現在は65歳以上の高齢者の方や60歳以上で持病をお持ちの方は、国の定める定期接種として、それ以外の6カ月齢以上の方は、希望者が申し込む任意接種として、多くの方にワクチン接種を受けていただいています。

が、今回はじめてインフルエンザワクチンを接種した。そうしたらインフルエンザにかかってひどい目にあつた」と、このような話を時々耳にします。ワクチン接種をお勧めしている者としても、「もう少し効いてほしい」というのが本音です。

麻疹・風疹ワクチン、ポリオの生ワクチンなどのように病気の予防に高い効果を発揮してくれるワクチンがある一方、インフルエンザワクチンの効果はいまひとつです。それなのにどうして毎年インフルエンザワクチン接種を勧められるのでしょうか?

かつて、3歳以上の保育園児や小中学生を対象にインフルエンザワクチン集団接種が行われていましたが、ワクチンの効果が疑問視され、1994年にインフルエンザワクチンは任意接種となり、ワクチン接種率は突然激減しました。

インフルエンザワクチンはインフルエンザの発症そのものを完全に防げませんが、重症化や合併症の発生を予防するワクチンであると位置づけられています。インフルエンザワクチンは、流行が本格化する前の年内の接種をお勧めします。

今回は両津病院の小林先生です。